

第616回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

テレビ番組

「ガラスの中の夢たち 自然クリエイター 天野尚が遺したもの」



平成 28 年 4 月 15 日

BSN新潟放送

第616回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成28年4月15日(金) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 本社6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	相羽利子	副委員長	古賀豊
委員	正道かほる	委員	小島良子
委員	佐々木広介	委員	佐藤元
委員	細田康	委員	高木言芳
委員	池田幸博	委員	服部誠司

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
営業局長	斎藤和利	編成局長	島田好久
報制局長	太田志信	ラジオ本部長	高坂元己

<説明員> 報道制作局情報センター ディレクター 内藤 亜沙美

事務局

事務局長	増山由美子(広報部長)
事務局員	丹羽崇(社長室長)

4. 議題

1 報告事項

- ・番組種別公表制度に基づく
「放送番組の種別と種別毎の放送時間」の報告(10月～3月)
- ・5月の新番組・単発番組について(各局長)

2 審議番組

テレビ番組

「ガラスの中の夢たち 自然クリエイター 天野尚が遺したもの」
(2015年12月30日(水) 10:00～10:55 放送)

5. 議事の概要

編成局長より「放送番組の種別と放送時間・CM放送時間（10月～3月）を報告。各局長からの5月度番組報告に続いて、「ガラスの中の夢たち 自然クリエイター 天野尚が遺したもの」について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- 編集が大変だったと思うが、非常に精力的でパワフルな天野さんの人となりと芸術をアーカイブ記録として遺してもらい、感謝している。天野さんを知っている人は、もっと別の面も見せてほしいと思うかもしれないが、天野さんを知らない人も多いため、7年間追いかけたBSNならではの良い番組だったと思う。天野さんファンにとって、いずれリスボンに行き水槽を見てみたいと思わせる番組だった。
- 涙なしには見られない番組だった。天野さんの思いを受け手がどうやって消化して、次の世代に伝えていくかという構成も、番組タイトルも良かった。7年間がしっかり記録されていて、ディレクターの思いが随所に入っていた。天野さんの人物伝ではなく、天野さんが伝えたかったものを紹介していて、彼が遺したかったメッセージはもう少し別にもあったかと思うが、全体的には素晴らしい番組で高く評価できる。
- ガラスの中の夢たちというタイトルに引かれた。水槽のテーマより佐渡のテーマの分量がかなり多かった。人となりや浮き彫りになる番組だったが、前半部分と後半部分のつながりが悪かった。自然をどう残すかや、自然と人間とのかかわりが骨太に伝わってきたが、タイトルと少しそぐわなかった。一方で、ナレーションの言葉が淡々としながら、天野さんの人となりや業績をうまく語っていて、良かった。
- 天野さんの写真や水槽のすごさをテレビ画面で伝えるのは難しいが、それでも元の作品の素晴らしさがテレビを通して伝わってきた。番組の構成も淡々として、非常に落ち着いていて、破綻がなかった。ただし、天野さんの闘病の姿や無念の思いをほとんど紹介していなかった。また、天野さんの後継者や、会社の今後はどうなるのかも気になったが、ほとんど描かれていなかった。天野さんの人物伝ではなく、あくまでも天野さんが遺したものを紹介する番組だった。タイトルに人物名が入っていたが、違った観点でまとめ上げた、とても素晴らしい番組だった。
- 最後には涙を流して番組を見た。天野さんにもっと早く知り合いたかった。民宿の川口さんがガイドになったように、天野さんとかかわった人々に、天野さんの思いがどのような形で伝わったのかを紹介する番組だと思った。佐渡の人々にとって、ただの杉の森だったものが、天野さんの登場で財産・宝物になり、地域の活性化につながった。豪快なのに緻密で、素敵な番組であり、感動した。

- 最初、自然クリエイターという言葉に引っかかったが、天野さんにとって水槽はただの作りものじゃない、自然を作りだしているとの感覚で、最後は腑に落ちた。
- 写真家として知っていたが、水槽製作の面は知らず、タイトルは当初、ピンとこなかった。しかし、写真家とクリエイターのどちらも自然保護という大きなテーマでまとめていた。子どもたちの環境教育にも使える教材で、非常に淡々と見ることができて、後に残る番組だと思った。天野さんは色々な意味でこれからも活躍してほしい方だった。
- 重いテーマを重すぎず、軽すぎず、絶妙なバランスで構成されていた。力まず、さりげなく展開していて、冷静に抑えて、感情に流されない姿勢を評価したい。悲劇的なラストに関わらず、さわやかな明るい希望がのぞく、豊かな余韻を残せた作品だった。天野さんの表情に凄みを感じ、活字では届かない表現だと思った。番組前半で佐渡の戸惑いや悩みを紹介しているが、そうしたことを地元がどう受け止め、どう乗り越えたかをもう一步掘り下げるとさらに後半に弾みがついたのではないか。天野さんは子供の心、純粹さを持った人で、世界を駆け回った根っこを捉える内容は秀逸。プライベートの部分を番組に盛り込むのは大変だが、もう一步踏み込む必要もあったのではないか。とはいえ、取材対象者との信頼関係を築かれたことは画面を見れば一目瞭然で、一つの作品にまとめあげた信念と努力は敬服するばかり。
- 天野さんは豪快な男でありながら、繊細さもあって凄い人。新潟が大好きで、新潟のために色々なことをやってきた。まさにその集大成が今回の番組。前半と後半がどうつながるかや、タイトルに少しひっかかったが、中身は非常に納得できる番組になったと思う。
- 天野さんは少年がそのまま大きくなった人で、月日が経つごとに、この番組の価値が高まると思う。

~報道制作局情報センター・内藤ディレクターから~

- 皆様から大変うれしいご意見、貴重なアドバイスを頂き、ありがとうございました。天野さんを新人ディレクターの時代から担当して、関係を築いてきた。天野さんのメッセージは、天野さんの作品たちがこれからもずっと伝え続けられると思う。それと同時に私達の番組を通して天野さんのメッセージを未来永劫、伝え続けることが天野さんへの一番の恩返しであり、新潟県民にとっても良い事ではないかと思う。私が天野さんに入り込み過ぎている点は、プロデューサーとも相談して、できるだけ引いてみることで構成を何度も変えながら作った。病気についても淡々と紹介した。タイトルについても悩んだが、写真集からヒントを得た上で、天野さんを語るキーワードとして夢を追い続けている人というイメージがあったので、つけた。また、自然クリエイター

一という造語が天野さんの仕事に合っているように思えた。闘病のシーンは何度か取材交渉したが、撮影には至らなかった。もう少し食い込めたら、天野さんのことをもっと伝えられたかと思ひ、後悔もしている。天野さんが後進のことを思ひ、ポルトガルで叱っているシーンをあえて使った。新たな番組の展開として、天野さんの会社の人たちや、佐渡の自然の今後を継続的に取材し続けたい。なお、この番組はBS-TBSで4月23日に放送されるので全国の方々に改めて見て頂ければと思う。

【文責・番組審議会事務局】
